

誰もが誰かのサンタになれる。



H₂Oサンタ

チャリティー活動報告



土曜日の午後は「誰もが誰かのサンタになれる。」

阪急うめだ本店9階の吹き抜けフロアは祝祭広場と呼ばれ、多くの人で賑わっています。大階段に腰掛け、お目当てのスイーツを頬張るご家族は満面の笑顔。大切な人がお買い物を楽しむ間、お一人でくつろぐお客様の姿。その隣では、学生さんたちが最新の「バズる」チョコレートやアイスを夢中でSNSにアップしています。多様な世代、多様な目的を持ったお客様が自然に集い、それぞれが和やかなひとときを過ごす「憩いの場」です。

そして、この祝祭広場は土曜日の午後3時になると「誰もが誰かのサンタになれる。」舞台へと変わります。大階段下のステージで、チャリティトークイベントが開催されます。このイベントは、こども支援に関わる社会貢献団体の方を毎週お招きし、活動現場の生の声をお届けするインタビューを行っています。活動を始めたきっかけや子どもたちの変化、そして団体として今一番困っていることなど、活動のリアルな姿をお話しいただいています。

こどもたちの現状が語られるにつれて、それまで思い思いに過ごされていたお客様の間に、静かな一体感が生まれていきます。イベント終了後には、ボランティアへの参加を申し出てくださいる方もいらっしゃいます。このトークイベントをきっかけに、それまで社会貢献活動に関心のなかった方々が「自分の残りの人生で、社会の何かの役に立ちたい」と、新たな一歩を踏み出されることもあります。ご自宅をこども食堂として開放されたり、こどもたちの居場所としてマンションの一室を提供して下さったりと、その形は様々です。

H2Oサンタから感謝の気持ちをお伝えすると、「こちらこそありがとうございます。誰かの役に立てて、こんなに嬉しいことはないです」という心温まるお言葉をいただきます。

私たちH2Oサンタの合言葉は、「誰もが誰かのサンタになれる。」です。

みなさまも、ぜひ一度訪れてみませんか。



一般財団法人H2Oサンタ
事務局長 外間孝次

取材レポート

「さわる絵本」が広げる 弱視のこどもたちの世界

H2Oサンタは、こどもを取り巻く社会問題の実態を把握するため、定期的にこども支援の現場を訪ね、専門家や社会貢献団体の方に取材を行っています。今回は弱視のこどもたちが楽しめる絵本作りや、さまざまな体験の場を提供している「NPO法人弱視の子どもたちに絵本を」理事の田中加津代さんにお話を伺いました。

取材・レポート：H2Oサンタ事務局長 外間孝次



弱視は、二つの意味で使われています。眼科で使われる弱視は、「こどもの視力の発達が妨げられていること」を指し、8歳くらいまでに適切な治療を受けることで視力を上げることができます。もう一つの弱視は、「両目に病気があり、視力が悪く、眼鏡を使っても両目の矯正視力が0.04から0.3未満であると同時に、ぼやけ・視野狭窄・中心暗点・まぶしさ等、さまざまな見えにくさがある状態」を言います。弱視は、国内で約27万人いる視覚障害者の70%以上を占めますが、いまだ

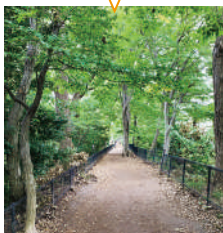
弱視の困難さは周知されていません。

特に、こどもの弱視の認知・理解・配慮は不足しています。例えば幼稚園児のAちゃんは、3センチ角の大きさの字(90ポイント)なら読めて、白地に鮮やかな絵が大好き。その個性を踏まえて絵本を選び、字の大きさなどを編集し、更にこれから必要な学びのために、点字を付けます。このように、弱視のこどもが自分で読める本を、学校や図書館、書店で自由に選べて、楽しめる日がいつか来ることを願って活動しています。

見えにくさがあっても 自分らしく読書を楽しめるように

視野が狭い弱視のこどもの見え方例

健常者



弱視の見え方例



●活動内容を教えてください。

「弱視のこどもたちにも“読める喜び”を届けたい」その想いでさわる絵本や拡大写本を手作りし、こどもたちに届ける活動をしています。1980年、ある書店で全盲児のお母さんの「これだけの本があるのに私の娘が読める本は1冊もないのですね」というつぶやきを聞いて、視覚障害児の現実を知った有志が立ち上げた「視覚障害児のためのわんぱく文庫」が生まれました。その後、点字図書や録音図書の製作、貸し出しの活動を行うなかで、弱視のこどもが「楽しめる」絵本を届けたいと、「NPO法人弱視の子どもたちに絵本を」を立ち上げました。わんぱく文庫は35年の活動を終えましたが、今、NPOでは、弱視や全盲のこどもたちの支援も引き継いでい

ます。弱視から全盲になるこどもや、弱視で点字を常用する子もいるため、私たちはさわる絵本や点字図書、ICT(情報通信技術)活用など、いろいろな「読む手段」にふれてもらい、一人ひとりにあった読書スタイルを見つけてもらうことを目指しています。

●さわる絵本との出会いは？

東京在住の理事から、品川区立図書館の「さわる絵本」が役立つのではないかと助言があり、東京へ見学に行きました。自分たちで作ろうと何とか講師を見つけて講習会を開催、製作ボランティアグループを作りました。しかし、いいと思える絵本にならない迷いの中、関東の視覚支援学校へ見学に行き、さわってわかる翻案(作品の大筋を活かしながら変更を加えること)、見ても美しいさわる絵本に感動しました。講師としての来阪を重ねてお願いしましたが、「数回の講座で分かるものではない。自分たちで試行錯誤すべき!」と断られました。つらく悲しかったですが、今は高みを目指して、製作ボランティア全員でがんばっています。

ふわふわ、ざらざら、ツルツル さわり心地で伝える絵本の楽しさ



●絵本作りでこだわっていることは？

動物の毛並みや鳥の羽のふわふわ感など、さわり心地は視覚障害のこどもたちにとっての大切な情報源であると同時に、さわる楽しさはとても大きなものなのです。本物に近い素材でと考え、いろいろな材料で何度も何度もさわり心地を皆で試し、話し合います。今の時代、日常で使われている多くの物がプラスチックで作られており、さわって感じられない自分たちの感覚の鈍化に気づかされています。

●こどもたちの反応はどうか？

絵本の中の立体的なキリンをさわった

こどもが「キリンさんは首が長いんだね!」と特徴をつかんでうれしそうに教えてくれました。絵本のストーリーは読み聞かせをしながら説明しますが、さわることで感触とストーリーの情報がひもづけられ、しっかりと記憶に残ります。靴下を片方脱いだキャラクターに触れたとき、同じように自分の靴下を片方だけ脱いだ子もいました。自分が履いている靴下の素材を知っていて、さわったものが同じ素材だったので「靴下」と理解できたということです。私たちは絵本を見て「この絵が好き」という感覚になることがあると思いますが、視覚障害のこどもたちはその気持ちをさわることで感じているのです。

さわる絵本は、小さいこどもだけではなく、中学生、高校生、大人までもが楽しんでいます。「いろいろな感触が楽しめる!」「ずっとさわっていたい!」と言ってくれます。



同じ境遇のこどもたちが つながり、交流できる場を

●さわる絵本は誰が作っているのですか？

吹田市や豊中市にある製作グループや公民館で開催する講座などで、年間約30人のボランティアの方と一緒に手作りしています。ほかにもユニバーサル絵本の講義を大学で行う機会があり、学生と先生のリクエストで製作講習を行いました。たくさんの方にご協力いただいています。さわる絵本は、まだ全然足りていません。絵本作りは、いろいろな発想や思いでご参加いただくことに意味があり、「何かができる」という要件は一切ありません。「何かできるかも」という思いだけで、どうぞ絵本作りにご参加ください。誰かのために行動することで、その人だけではなく、自分の気持ちも前向きになれるような気がします。自分が作ったさわる絵本を手取るこどもたちの笑顔や楽しむ姿を思い浮かべながら、日々作っています。

●そのほかの活動も教えてください。

弱視のこどもたちにとって“実際にふれる”学びと体験、その二つを柱にしています。自然観察、理科の分野は、見て気づく、写真や図で学ぶことが基本、一番配慮した学びが必要です。そこで、和歌山

大学富田教授の立体模型を使った天文学の授業から始まり、沖縄大学のゲッチョ先生のワークショップなど、得難い特別授業を開催しました。パラスポーツの体験なども開催しています。今年の3月9日にはタンDEM自転車という2人乗り自転車のイベントを滋賀県「びわこ地球市民の森」公園で行い、たくさんのご家族に参加いただきました。これは、大阪服部緑地公園の開催の後、滋賀県のこどもたちのために行った体験会です。おしゃべりしながら一緒に風を切る感覚を楽しむ親子や、怖がりながらも公園を1周して戻ってくる頃には笑顔になっている子もいました。同じ体験を通してこどもたち同士は仲を深め、また保護者とのつながりをさらに深く感じます。視覚障害のこどもは少なく、やはり、同じ条件の仲間との出会いは、知らず知らずのうちに共感を覚えると考えています。



「やってみたい！」から広がる未来 こどもたちの夢をサポートできる社会に



●体験のアイデアはどのように 生まれていますか？

体験イベントのはじまりは、こどもたちの「…したい!」「…好き!」という声です。「数学者になりたい!」という声には、数学で大学院をでた先輩を招き1泊2日で「素数」を学びました。「電車が大好き!」という声には、各駅停車で岡山や名古屋まで遠征したり、環状線録音めぐりをしたり、視覚障害児しかできない楽しみ方を皆で見つけてきました。また、あるお母さんから「目が見えないとどんな仕事ができるの?と、こどもに聞かれて返事ができなかった」と聞いた時には、視覚障害がありながら教師や新聞記者となった先輩と交流を行うなど、

将来の希望へとつながることを願った体験イベントを開催しています。

●今後の目標について教えてください。

視覚障害のこどもたちの中には、地元の学校へ行きたくても、障害のための教育が地元では得られないと言われ、地域の学校に通えない子もいます。障害の特性に応じた学びや読書ができる手助けのほか、体験の場、仲間との出会いの機会を少しずつ広げていき、どこにいてもどんな障害があっても十分な支援を得て、自分らしく生きていける社会の土台を作っていきたいです。弱視や全盲のこどもたちが自分の夢や希望を諦めなくてもいい明るい未来を願って、今後も活動を続けていきます。



田中さんたちの活動にはいつもこどもたちの「楽しい!」を追求する温かい想いを感じます。ボランティアさんも楽しみながら絵本を作られ、イベント

に参加するこどもたちはいつもイキイキとしてやる気満々です。この活動の輪が広がり、さらに多くのこどもたちの笑顔につながればと思います。

チャリティーの輪が広がっています。

H2Oリテイリンググループの店舗やイベント会場で実施しているチャリティーパークも恒例化し、社会貢献団体と地域のみなさまをつなぎました。

たのしい、かんたん。 チャリティーパーク

開催：2025年2・3月

地域と社会貢献団体をつなぐ“たのしい、かんたん。チャリティーパーク”を2月と3月は6か所で開催。H2Oリテイリンググループの食品スーパーやショッピングセンターに加え、万博記念競技場で行われたちびっこマラソン大会でも実施しました。「百貨店で見たことがある。」「グループで社会貢献に取り組んでいるんですね。」といったお声や、従業員からは「H2Oサンタの活動を実感できた。」「こども支援に役立つのがうれしい。」という声をいただき、こども支援の輪を拡大しています。

合計11日間で1,437名、24,958円の募金が集まりました。

レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



チャリティーパークとは？

NPOクイズやチャリティー缶バッジ作り、おもしろ募金箱などで楽しみながらチャリティーに参加できるスポットです。



私のアイデアで制作された
“おもしろ募金箱「山登りぼ金箱」”も
活躍していました。



ロハスフェスタ®万博 2024 秋

開催：2024年11月3日（日・祝）
会場：大阪・万博記念公園 東の広場

毎年春と秋に出展しています。982名のみなさまがNPOクイズに参加いただき、15,423円の募金が集まりました。H2Oサンタ活動にご賛同いただいた他企業からのボランティアの方々にもお手伝いいただき、「はじめてこども支援に関わることができて気分が良いです。」という感想をいただきました。



レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



詳しくは
ブログを
みてね。

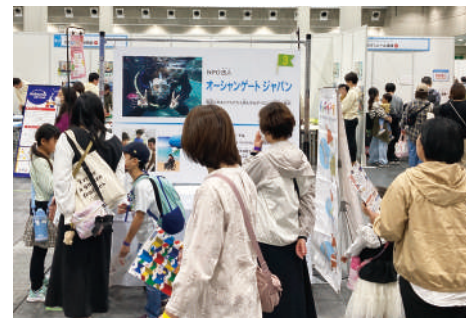


みらいのたからばこ 2024in大阪

開催：2024年11月9日（土）・10日（日）
会場：インテックス大阪

大阪府下のこどもたちが約2万人参加する地域密着おしごと体験イベント『みらいのたからばこ』に出展。2日間で1,669名の子育てファミリーがNPOクイズに参加され、こども支援団体のことを知っていただき、認知をあげることができました。

夏に百貨店のチャリティーイベントのステージでMC体験をした子が、H2Oサンタの出展を知り、ブースに顔を出してくれるなど、つながりを感じました。



レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



今回は
11月29日（土）・
30日（日）に
出展します。



第20回 NPOフェスティバル

開催：2025年2月19日(水)～24日(月・休)
会場：阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



NPOフェスティバルとは？

世の中にまだ広く知られていない、こども支援に取り組む社会貢献団体の有意義な活動をご紹介します、寄付を募るイベントです。

病児や障害児などを支援する13の社会貢献団体をご紹介します。ブースでは団体スタッフが常駐し、活動を身近に感じていただけるワークショップの実施やグッズの販売なども行いました。ブースを回ると答えがわかる“NPOクイズ”には1,144名の方々に参加いただき、さまざまな社会課題に取り組む社会貢献団体の活動に触れていただきました。

クイズに全問正解するとガラガラ抽選でもれなくH2Oサンタのオリジナルグッズをプレゼントするため、たくさんのこどもたちが楽しくチャレンジしてくれました。

来場者の中には「百貨店でイベントなら安心して寄付ができます。」と言って、全てのブースに寄付してくださる方の姿もありました。

レポート：H2Oサンタ事務局 梅田 潔



21回目となる
NPOフェスティバルは
8月6日(水)～11日(月・祝)
開催予定です。



NPO法人 西淀川子どもセンター

(こどもの食事・教育支援)



代表 西川奈央人さん(写真左)
上田健太郎さん(写真中)
西村克行さん(写真右)

西淀川区で、こどもたちが困った時に気軽に相談に来られる居場所活動をしています。夜ごはんを一緒に作って食べる活動を中心に、こどもを見守る地域の大人の輪を広げるためのネットワーク作りもしています。今回のイベントをきっかけに、ボランティアシェフとして来てくださる方もいらっしゃいました。ひとり親や貧困家庭だけでなく、身近な場所にもいるような悩みを抱えることも多くいることを知ってもらえたらうれしいです。

認定NPO法人 ノーベル

(訪問型病児保育で親子を支援)



副代表 吉田綾さん(写真左)
徳増瑛子さん(写真右)

私たちは「こどもが発熱、でも仕事は休めない」そんな親御さんに代わり、当日予約100%対応で自宅に訪問し、お子さんをケアする病児保育を提供。働く子育てで世帯を支えています。ひとり親家庭や特別なケアが必要なこどもにも対応。イベントではこども向けワークショップや、育休復帰準備セミナーも実施。復帰後の困りごとを社会とつながることで解決し、無理なく働き続けられることを知ってもらう機会になりました。

NPO法人 オーシャンゲート ジャパン

(障害のあるこどもたちも楽しめるダイビング体験の提供)



代表 白杉芳彦さん(写真右)
理事 田中由季子さん(写真左)

障害のあるこどもたちに、海洋スポーツを通して海の美しさや素晴らしさを感じてもらえる活動をしています。今回は、私たちが集めた貝殻を使ってクラフトワークショップを実施。イベントで出会った方がご家族でパラダイビングを体験しに来てくださったり、スタッフとして参加してくださることもありました。自然体験のハードルを少しでも下げられるように、今後も私たちの活動を広めていきたいです。

「世界にひとつだけのブライス」 チャリティーオークション

開催：2025年2月19日(水)～24日(月・休)
会場：阪急うめだ本店 9階 祝祭広場

オークション会場には、全56体のドールが並び、629件の入札がありました。今回は、令和6年能登半島地震被災地支援として、落札金額から人形の原価と消費税を引いた全額2,654,071円を、社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金(ボラサポ・令和6年能登半島地震)」に寄付いたしました。

レポート：H2Oサンタ事務局 森田 英里



「世界にひとつだけのブライス」 チャリティーオークションとは？

阪急うめだ本店・阪神梅田本店の人気ブランドのご協力によりデザインされた、オリジナル衣装をまとったブライズドールをオークション形式で販売するチャリティーイベントです。



詳しくはブログをご覧ください。



土曜日の午後はH2Oサンタ チャリティトークイベント

開催:2024年10月~2025年3月

会場:阪急うめだ本店 9階 祝祭広場



ヤングケアラー支援団体が初登壇!
(NPO法人ふうせんの会)

チャリティトークイベントとは?

毎週土曜日の午後3時に社会貢献団体のスタッフをお招きし、インタビュー形式で活動現場のリアルをお伝えするイベントです。



イベント終了後、多くの方が絵本を手に
(NPO法人弱視の子どもたちに絵本を)

まだ多くの方がご存じでないこどもに関わる社会課題や、その課題を解決する社会貢献団体の活動を、毎週土曜日の午後3時にインタビュー形式でご紹介しています。

ご登壇いただいた団体スタッフの方々には「まずは団体の存在を知っていただきたい。そして、それを拡散して欲しい。私たちの活動を知っていただくには、ここ(祝祭広場)は最高の場所です。」とおっしゃいます。

百貨店には、毎日たくさんのお客様がいらっしゃいます。お買物の途中で何気なく、祝祭広場の大階段に座り、たまたまトークイベントを耳にして、聞き入る方も少なくありません。「私の会社の近くにこんな素晴らしい活動をしている団体があることを知らなかった。職場の人にも教えたい!」というあたたかい声もいただきます。知ることから始まり、共感の輪が広がれば、うれしい限りです。

レポート:H2Oサンタ事務局 原田郁子



2024年

- 10/ 5 **NPO法人サイレントボイス**
(聴覚に障害を持つこどもの居場所作り)
- 10/12 **NPO法人子どもセンター めっく**
(居場所がない少女のための避難ハウス運営)
- 10/19 **認定NPO法人ノーベル**
(訪問型病児保育で親子を支援)
- 10/26 **公益社団法人小さいのちのドア**
(妊産婦や赤ちゃんのいのちを守る活動)
- 11/16 **NPO法人つなご**
(居場所がない少女のための避難ハウス運営)
- 11/23 **NPO法人日本サービスドッグ協会**
(引退補助犬の支援)
- 11/30 **NPO法人つなげる**
(多胎児家庭〔双子、三つ子など〕のつながりを支援)
- 12/ 7 **一般社団法人ニュールック (new-look)**
(高校を中退した若者の支援)
- 12/14 **認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン**
(貧困や差別からこどもを自由にする活動)
- 12/21 **認定NPO法人ジャパンハート**
(アジアの医療の届かないところに医療を届ける活動)

2025年

- 1/11 **NPO法人西成チャイルド・ケア・センター**
(こども食堂を通じた地域のつながり作り)
- 1/25 **認定NPO法人クラック**
(困難な状況の中高生をデジタルの学びで支援)
- 2/ 1 **公益財団法人ゴールドリボン・ネットワーク**
(小児がんのこどもたちを支援)
- 2/ 8 **認定NPO法人ノーサイド(あかりバンク)**
(病棟などに手作りの癒やしのあかりを贈る)
- 3/ 1 **一般社団法人チャーミングケア**
(病児・障害児のためのショッピングモールを運営)
- 3/ 8 **NPO法人弱視の子どもたちに絵本を**
(視覚障害のこどもたちの支援)
- 3/15 **社会福祉法人兵庫盲導犬協会**
(盲導犬の育成、無償貸与)
- 3/22 **NPO法人ふうせんの会**
(ヤングケアラーがつながる場所を提供)
- 3/29 **NPO法人あっとオーティズム**
(自閉症の理解促進のための啓発活動)



今後のスケジュールは、
H2Oサンタのホームページや
Facebookをチェック!
みなさまのご来場、
お待ちしております。



H2Oサンタの
ホームページは
こちら

従業員ボランティアがこどもたちのサンタに



2024年のXmasは、従業員サンタがたくさん誕生しました。

阪急クリスマスマーケットから天然のモミの木を21本ご提供いただき、従業員ボランティア6名で手分けして、児童養護施設やこども食堂など13の施設にお届けしました。

また、前年に引き続き、クリスマスマーケットには乳児院のこども7名をご招待。5名のボランティアがアテンドし、メリーゴーラウンド乗車やアイシングクッキー作りを体験いただきました。その風景をボランティアが撮影し、最後に自分が

写った缶バッジを作ってもらいプレゼント。こどもたちも職員のみなさんも非日常体験を喜んでくださいました。

そして、今回で3年目となる日本クラウン協会から依頼のXmasカード作り。これまでで最高となる37名が参加し、200枚のカード制作をお手伝いすることができました。

今後もサンタがたくさん活躍できるよう、ボランティアをつないでまいります。

レポート：H2Oサンタ事務局 森田英里



寄付額合計 9,461,699円

能登半島地震支援金募金、チャリティーガイドやイベント、web募金で集まった寄付金を、56団体へ寄付いたしました。みなさまのご協力ありがとうございました。

寄付先団体
からのお声

H2Oサンタのブログにて、毎月の寄付報告を掲載しています。
詳しくは、H2Oサンタのホームページからご覧ください。



**NPO法人
子どもデザイン教室**
(児童養護施設のこどもを支援)
代表理事 和田隆博さん

NPO法人子どもデザイン教室は、絵や工作などの創作活動で社会的養護児童の意見表明と自己肯定感を育むという教育的福祉的活動を行っています。みなさまからいただいたご寄付は、低学年には創作活動で笑顔と自信をもつ「絵と工作レッスン」、高学年にはキャラクター商品を企画・販売する「こどキャラレッスン」のほか、大人の傾聴姿勢と、こどもの意見表明を促すワークショップ「おとなとこどもの時間」の実施に活用させていただきます。引き続き、ご支援よろしくお願いします。

能登半島地震および豪雨災害支援金募金にご協力ありがとうございました。

令和6年1月の能登半島地震および9月の奥能登豪雨災害被災地継続支援のため、阪急うめだ本店において1月11日(土)～17日(金)まで、「H2Oサンタ令和6年能登半島地震・豪雨災害支援金募金」を実施しました。957,590円を社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」に寄付いたしました。ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。





一般財団法人H2Oサンタは、H2Oリテイリンググループの社会貢献団体です。
こども支援をテーマに、地域社会にチャリティーの文化を創造することを目的とした
4つの活動を行っています。

1 社会貢献団体と連携した啓発・募金活動

展示会やイベントで様々な団体を紹介し、寄付を募る活動を行っています。

2 寄付のためのイベント

寄付金を集めるための販売会・展覧会・ダンスイベントなどを開催しています。

3 ボランティアの仲介

ボランティア活動に参加していただける方々と社会貢献団体をつないでいます。

4 調査・発表

こどもたちに関連する諸問題を調査し、本誌などで紹介しています。

H2Oリテイリンググループ

百貨店、スーパーマーケットなど小売業を核とし、
地域のみなさまの生活に貢献する生活総合産業グループです。



賛助会員ご加入のお願い

H2Oサンタの活動を継続するためには、
みなさまからのご支援が必要です。
活動の趣旨にご賛同いただき、賛助会員へ
のご加入をよろしくお願いいたします。

右記の
二次元コードから
お申込みください。



【会員種別】

法人会員 ——— 1口 50,000円
個人会員 ——— 1口 5,000円

【年会費】

会員様一覧



一般財団法人H2O サンタ事務局

TEL:06-6313-9304 (10:00~18:00) ※火・日曜以外

Mail:h2osanta@h2o-retailing.co.jp

